

2022.1
vol. 5



Diversity & Inclusion

～“いのちのつながり”に貢献する医療、研究のために～

コロナ禍における研究と生活の両立に向けて

新型コロナウイルス流行下では、いわゆるエッセンシャルワーカーの仕事と生活の両立の困難さが社会的な課題としてクローズアップされました。当法人の臨床現場では、研究と生活の両立に向けてどのような工夫が行われているかご紹介します。

Interview

病院直結の病児保育で 顔の見える安心感を

日本医科大学武蔵小杉病院の院内保育施設である「すくすく保育園」は、2021年9月に新病院に隣接する別館に移転し、10月からは当法人初の病児保育室としての運用も始まりました。



日本医科大学武蔵小杉病院
小児科 助教 田嶋 華子

病児保育室の開設に際しては、しあわせキャリア支援センターなどに既存の病児保育施設の調査をしてもらいました。すると、コロナ禍の影響からか熱症状、風邪症状のある子どもは受け入れないという施設が多いことが分かりました。公立の施設もありますが、前日までの予約が必要だったり、競争率が高かったり、距離が遠かったりなど不便なケースが多く、これではエッセンシャルワーカーの病児保育のニーズを満たせません。

これに対して、当病院の病児保育室は当日でも利用できるようにしました。看護師は常駐していませんが、病院に直結しているので緊急時はすぐに小児科外来から駆け付けられるため、保育士さんたちには安心して保育に当たっていただけます。病児保育には2部屋用意しており、一部屋2人まで合計4人まで受け入れ可能です。病院の敷地内にある強みを活かして、感冒症状のある子どもは必要に応じて感染症の抗原検査を行うなどしてから受け入れる等、対応を取ることにしています。



2021年夏のいわゆる第5波では、どの保育施設も利用控えをお願いされる状態で、両親がエッセンシャルワーカーであることの証明まで必要な地域もありました。すくすく保育園は病院内にあるので稼働を続けるのは当然ということで、保育士の皆さんも責任感を持って預かってくださいました。もちろん、預ける側もモラルを持って、症状のある時には無理をさせないなど、お互いの顔が見える関係性の中で秩序を持って運営できたのは素晴らしいことでした。小規模で顔の見える関係性の中で得られる安心感は、とても大切だと改めて思いました。

コロナ禍で育児休業を少し長めに取る人も増えました。こうした中、とくに育休明けの体力的にも、知識面でも追いつくのが大変な苦しい時期に、子どもの病気が絡むと精神的にとても大変で、頑張れなくなってしまいます。やっぱり無理だったかな、と思ってしまうのはとてももったいないので、病児保育をはじめとする支援を利用しながら、少しでも負担感を減らしてほしいです。

武蔵小杉病院では、当大学の4つの病院では初めて病児保育室を開設しました。育休から復帰した女性医師も増えており、その経験や両立に向けた工夫、サポート体制などを他の施設にも広げていきたいです。

● 動物医療と教育活動の両立のために

2020年4月に緊急事態宣言が発出された際には、さまざまな施設に休業要請が出されました。しかし、動物病院は休業要請の対象に含まれませんでした。大学は休校してオンライン授業となる中で大学付属施設としての動物医療センターでは診療を続けるのか、という声がスタッフの間から上がりました。実際、周辺の大学付属の動物病院は限りなく休診に近い状況でした。一方で、町中の動物病院では診療が行われていました。私たちは二次診療の動物病院として町中の動物病院からの紹介を受けているので、休診すると地域における受け皿がなくなってしまいます。このため、センターとしては休診しない方針を打ち出したのです。

大学全体として在宅勤務を認める措置ができましたが、病院診療ではそれができません。やむを得ず休む必要がある人には、有給休暇などの特別休暇を使って休んでもらいました。このほか、現場の獣医師の裁量で、初診の受付件数を減らしたり、診療時間を少し短縮したり、診療を継続できるよう努めました。

感染予防のため、診療方法も変わりました。飼い主の皆さんにはマスク着用を義務づけるとともに、待合スペースが狭いため、希望する飼い主には順番が来たら携帯電話へ呼び出しするシステムも併用させていただきました。診察室が密にならないよう、診察側の人数も通常よりも減らして対応しています。

センターでは看護師で15名、獣医師で5名、研修医で半数は女性です。妊娠中や時短勤務の人たちもあり、子どもが保育園で感染していく、あるいは自分自身が感染することへの緊張感があつたはずです。みんなにフルで働いてもらうほうが効率的かもしれません、今では抜けたら抜けた状態の中でできる仕事のやり方をしようとっています。そうすれば、休む人が過度な精神的負担を強いられないようになります。

幸い、育児休業を取ったスタッフはほぼ復帰してくれていて、働きやすい職場だと感じもらっているのだと思います。子育てをしながら働くことが当たり前になっていくよう、職場環境を整えることを心がけています。

新型コロナウイルスの流行前には本学の学生や外部の獣医師の診療見学を受け入れてきましたが、流行開始から約半年間は受け入れを止めざるを得ませんでした。現在では、受け入れ制限を少しずつ緩和しています。飼い主の皆さんと獣医師たちでマスク着用と手指消毒と検温という当たり前の感染予防策をお互いに取りながら、今後も動物医療と教育活動の両立を進めて参ります。



日本獣医生命科学大学
付属動物医療センター
院長 藤田 道郎

制度紹介

研究活動と育児の 両立支援制度について

当法人では、研究活動と育児の両立を支援するため、夜間・早朝保育、休日保育、病児・病後児保育を利用する際の利用料金の一部を補助しています。小学校6年生までの子どもが保育施設やベビーシッター会社、および市区町村で行っているファミリー・サポート・センターの保育を利用する際に、利用料金の一部が補助されます。各制度の概要や手続き方法などの詳細は、本事業としあわせキャリア支援センターウェブサイトに相談窓口の連絡先とともに掲載しています。



- 病児・病後児および休日勤務時等の保育支援制度



- ベビーシッター派遣病児保育支援事業



- 令和3年度
ベビーシッター派遣事業割引券の発行



アンケート結果

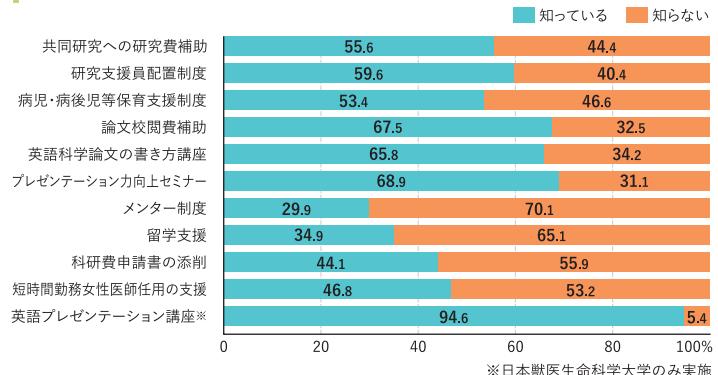
学校法人日本医科大学におけるワーク・ライフ・バランス等に関する調査(第2回)

本事業の一環として、2021年6月に「学校法人日本医科大学におけるワーク・ライフ・バランス等に関する調査(第2回)」を実施しました。調査の目的は、教員および研究者の職場環境の現状を把握・分析して今後の支援策に役立てることに加え、特に前回(2019年実施)との比較を行い、支援や取り組みの効果、意識の変化などを評価することにあります。調査項目は、ワーク・ライフ・バランス、留学、介護、保育支援などからなる58項目で、1,137名に実施し、有効回答数は421件でした。結果の一部をご紹介します。

介護制度の周知が今後の課題

制度の周知状況としては、育児に関する制度(育児休業制度:83.1%、育児短時間勤務:68.9%)と比較して、介護に関する制度(介護休業制度:46.3%、介護休暇:47.7%)の周知率は低いという結果でした。ダイバーシティ関連の取り組みでは、プレゼンテーション力向上セミナー、英語科学論文の書き方講座、論文校閲費補助が6割以上の周知率で、研究力向上につながる、より実践的な取り組みへの関心が高いことがわかりました。

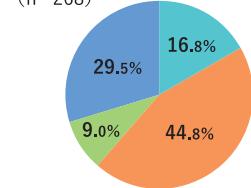
「ダイバーシティ補助事業」、「ダイバーシティ推進委員会」の次のような取り組み内容について知っていますか(n=421)



約6割が留学を検討

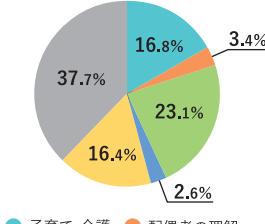
留学を考えたことがあるのは61.6%で、実数でも前回より増加しています。(149→165人)。留学を選択しなかった理由は、子育て・介護が前回比で減り、医局内の人事の調整がつかない、減収になるは不变でした。一方「その他」の回答が増加し最多で、一般的に考えられる理由以外の個別の理由が背景にある可能性があり、留学経験者によるアドバイザー制度を導入し、個別の背景にきめ細やかに対応できるよう整備する計画です。

これまで留学を考えたこと、提案されたことはあるか(留学未経験者対象)
(n=268)



● 考えたことがあります、
提案されたこともあります
● 考えたことがないが、
提案されたことがあります
● その他

留学を選択しなかった理由
(留学未経験者対象)(n=268)



● 子育て・介護
● 配偶者の理解
● 医局や研究室の後任の人事や、業務上の調整がつかなかった
● 助成金や補助金を得られなかつた
● 減収となること
● その他

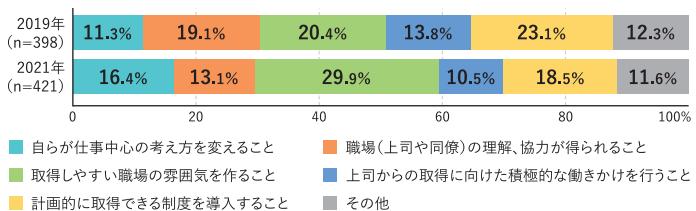
働き方の意識改革を

有給休暇を希望通り取得できているのは53.2%で前回(46.2%)から増加したものの、いまだに半数は希望通り取得できていません。取得しやすくするために、上司の働きかけや制度の導入と回答したのは前回比で不变か減少傾向でした。一方、自らが仕事中心の考え方を変えること(16.4%)、取得しやすい職場の雰囲気作り(29.9%)の回答が大幅に増加しており、自分や同僚の働き方への意識改革が必要と考えていることが分かりました。

現在、有給休暇を希望どおり
取得できているか(n=421)



有給休暇を取得しやすくするために最も必要な支援策(n=421)



調査概要

【回答方法】無記名・WEB回答
【有効回答数】421件

【対象者】日本医科大学と日本獣医生命科学大学の教員および研究者 1,137名
【実施期間】2021年6月28日(月)～2021年7月18日(金) 22:00

活動報告

伝わるプレゼンテーション力を身につける

研究者としてのキャリア形成に不可欠なプレゼンテーションのスキルを学ぶことを目的に、「効果的に伝えるためのスライド作成」(2021年7月13日 講師 田中佐代子先



生、三輪佳宏先生)、「伝わる英語プレゼンテーション」(2021年8月3日 講師 野口ジュディー津多江先生)を開催しました。実践的な内容の講演だったこともあって多くの研究者が刺激を受け、「今まで知らなかったことを学べた!」「すぐにでも取り組みたい」との感想を多く頂きました。今回は「全国ダイバーシティネットワーク東京ブロック」参画機関からの研究者の参加が多く、参加者は250名を超える活発なセミナーとなりました。講座は連携機関の皆様にはいつでもご覧いただけます。

動画はこちらから
ご覧いただけます。



マネジメント力養成講座を開催

「今の働き方ではキャリア継続が困難だと感じる割合が女性において特に多い」「男女ともに研究時間を確保する必要性を感じる」など私たちにとっての課題について、研究者個人と管理職それぞれの視点から考える講座を開催しました。ダイバーシティ&インクルージョンの分野で高い専門性を持つ塚原月子先生を講師に迎え、若手研究者向け、准教授以上の管理職向け、全教職員向けの全3回を実施し、参加者間での率直な議論、意見共有をしながら講座を進めました。組織と個人のありたい姿をどう合わせるのか、明日から自分がとるべきアクションが何かを真剣に考える、これまでにない機会となりました。今後はこれを発展させて継続する予定です。



その他の活動報告

M 2021年

- V 12月18日 第2回女性・若手研究者 キャリアデザインプロジェクト研究発表会 知
- A 12月17日 リーダーシップ&マネジメント力養成セミナー 知
シンポジウム「日獣大のダイバーシティを推進するには?」
- 12月14日 イクボスセミナー&イクボス宣言 知
- 11月24日 介護と仕事の両立支援セミナー
(全3回 11/29, 12/6) 知
- 10月22日 One Health メンター制度
メンターインタビュー連載開始 支 知
- 10月18日 第2回女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト グループ研究開始
- 8月3日 プrezentation力向上セミナー「伝わる英語プレゼンテーション」 知
- 7月13日 プrezentation力向上セミナー「効果的に伝えるためのスライド作成」 知

M 2021年

- V 10月1日 女性医師・研究者の支援に向けた クラウドファンディング開始(～11/29) 知
- 10月1日 2022年度 研究支援員配置制度・
共同研究の公募開始 支 知
- 6月28日 第2回ワーク・ライフ・バランス等に
関するアンケート調査実施(～7/18)
- V 2021年
- 8月4日 英語プレゼンテーション講座実施
(～2022/3/31)

【実施機関】 M …日本医科大学

V …日本獣医生命科学大学

A …アンファー株式会社

【ホームページに記載がある情報】 支 …支援制度

報 …活動報告

知 …お知らせ

詳細、お申し込みなどは
One Healthのウェブサイトを
ご覧ください

文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)

【代表機関】日本医科大学 【共同実施機関】日本獣医生命科学大学 アンファー株式会社

【編集・発行】学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター 〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5 TEL 03-3822-2131 one-health.jp

